

平成 28 年度まちづくり市民集会・大ワールドカフェの意見・アイデアのまとめ

(1) みがき上げ、次世代へ贈りたい「やいづ自慢」とは

- ①焼津市民の人の良さ
- ②焼津らしさ＝海・港・魚・水産加工物をはじめとする名所・名物
- ③まちの玄関口である焼津駅前

(2) 大ワールドカフェの意見・アイデアから見えてくる焼津のまちづくりの重点テーマ

I. 人がつながり、集う場とネットワークの充実

- ・世代、性別、障がいの有無など、様々な個性や違いのある人々がつながり、集うための潤いのある「場」と「ネットワーク」がさらに求められている。
- ・人のつながりが薄くなる中で焼津が「助け合いのできるまち」であるためには、『人が孤独にならないための場』、『そこにいけば誰かいる場、話せる場』、『集まりやすい場』が必要。
- ・集いの場づくりは、一過性のイベントではなく、継続的につながり、持続性のある集まりを積み重ねられるネットワークづくりでもあることが重要。

II. 焼津駅周辺のにぎわいづくり

- ・焼津駅周辺・駅前で「焼津らしさ」を活かし、にぎわいをつくり出したい。
- ・「食べる」、「語る」、「観る」、「聴く」、「待つ」、など、様々な活動の場としていきたい。
- ・駅前にカフェのように様々な人が集い、焼津に生きる幸せが感じられる場所を。

III. 観光・交流・仕事からまちを元気にする新しい物語づくり

- ・焼津らしさ（海、港、魚、練り物など）を紡いで物語をつくる。
～海から練り物まで。「魚ロード」
- ・点在する豊かな資源をつないで回遊する観光ルートをつくる。
～食を楽しむ、まちの歴史を知る、ものづくり体験をする（大漁旗、魚河岸シャツ）
- ・オープンで温かな心・気持ちをもって焼津を訪れた人を迎え入れる。
- ・焼津を出て行った若者が戻ってきて働ける仕事をつくる（ふるさと納税・産業振興）。